

生活道路の交通安全対策事業

- 目的 交通ビッグデータを活用して、速度超過、急ブレーキ発生等の潜在的な危険箇所を特定し、**ハンプ**や**狭さく**等を効果的に設置することにより、速度抑制を図り、歩行者や自転車中心の空間づくりをする。

※20~30km/hの致死率は、30km/h超に対して約1/4となっている。

- 概要 速度抑制対策や通り抜け対策として、次の交通安全対策を社会実験にて実施。

【対策メニュー】

進入口を入りにくくする



スムーズ歩道 ライジングボード

走行速度を抑制する



凸部(ハンプ) 狭さく シケイン

○公安委員会により実施される交通規制、交通管制及び交通指導取締りと連携

ゾーン30
(都道府県公安委員会)



バス路線 30

歩行者・自転車の空間を優先して確保する



カラー舗装 自転車通行空間 カラー舗装

(イメージ)

歩行者の空間を確保する



防護柵 路肩のカラー舗装

- ETC2.0 急ブレーキ、急ハンドル等の危険挙動データ、走行速度、通過経路等の情報を得る事ができる。



路側機



ETC2.0 対応車載器 ETC2.0 対応カーナビ



プローブ情報
● 速度、急ブレーキなど



急減速発生地点 急ブレーキ、30km/h超過が連続している区間

× 急減速発生地点 × 交通事故発生地点

30km/h 超過割合

- 40%未満
- 60%未満
- 80%未満
- 80%以上

※交通ビッグデータは、名古屋国道事務所からの情報提供となります。